

海外出張報告

第5回アジア養豚獣医学会出席

出張期間：2011年3月8日～11日

出張場所：タイ（パタヤ・NIAH）、ベトナム中央獣医診断所（NCVD）

KAWASHIMA Kenji

病態研究領域 上席研究員 川 篤 健 司

2011年3月8日～11日にタイ・パタヤで開催された5th Asian Pig Veterinary Society Congress（第5回アジア養豚獣医学会：APVS2011）に参加しました。APVSは2003年に韓国・ソウルで始まり、フィリピン・マニラ、中国・武漢、日本・つくばに続き、第5回目になります。アジアでは、めざましい経済発展に伴った肉消費の急伸に応えるため養豚の大規模化が進展していますが、その一方で従来の残飯養豚も点在し、家畜疾病のコントロールを難しくしています。また、国境検疫も大きな課題です。APVSでは、これらのアジアに共通する豚生産や疾病を情報共有し、ともにその課題を乗り越えていくことを理念としています。お手本とする International Pig Veterinary Society（IPVS）に

似て製薬や資材メーカーの見本市の要素も大きく、学際的な会議と混在しているのも魅力の一つかと思えます。

今回のAPVS2011では、15ヶ国222演題の口頭・ポスター発表が行われ、日本からは前回のつくば開催時の事務局で大きな役割を担った動衛研から、その余勢をかって11名が参加しました。その他、APVSの石川理事が所属する日本養豚開業獣医師協会（JASV）からも多数の方が参加していました。私はソウルとつくばに続き、3回目の参加です。国際的に有名な欧米の研究者を目玉にした当初の開催に比べて、今回はアジアやオーストラリアの研究者がメインプレゼンターとなっていると感じました。主催国のタイ以外では、韓国、日本、

台湾からの発表がまだまだ目立ちますが、徐々にベトナムやマレーシアの発表などが出てきました。これらの国からの発表は、アジアの集会ならではのことで、APVSの大きな収穫といえるのではないのでしょうか。私たちは、ウイルスのセッションにおいて高病原性PRRSを発表しましたが、このウイルスのセッション6題中5題をJICAプロジェクトのPRRSワークショップに参加した日本、ベトナム、カンボジア、ラオスが占め、日本とこれら各国との国際協同の活動をアピールできたので



APVS2011 セレモニー

はないかと思っています。会場のパタヤ・アンバサダーホテルはビーチと大きなプールをもつ一大リゾートホテルでした。以前は日本からの観光客も多かったそうですが、市街から遠く施設が古いためか、我々以外の日本人はおらず、代わってロシアからの観光客に占められていました。APVS2011のセレモニーでのタイ料理は素晴らしく、次回のAPVS開催地はベトナムということですので、また、おおいに期待しているところです。みなさんも機会があれば、ぜひ参加して下さい。



ベトナム NCVD 病理診断室スタッフとのディスカッション

APVS2011に合わせて、豚疾病に関する研究協力を進めていくためにベトナム中央獣医診断所（ベトナム NCVD）とタイ動物衛生研究所（タイ NIAH）を訪問しました。ベトナム NCVD 訪問は、昨年9月に JICA プロジェクトの短期専門家で行った際のフォローアップを兼ねたものです。病理組織診断の施設やソフトはまだまだ十分ではありませんが、若い熱心なスタッフが多く、今後とも一緒に活動できればと思っています。ベトナムでは、これまでと異なり口蹄疫が養豚で発生し大きな問題となりました。また、高病原性 PRRS や豚コレラ診断に際しての類症鑑別も大きな課題です。

した。私にとって、タイ国は最初の訪問でした。バンコクは高速道路を走る車窓からの風景は東京と変わりませんが、一步通りを分け入ると屋台が連なり、東南アジアの匂いがむっと立ちこめるようなところです。今回、バンコク滞在は足早でしたので、もう一度機会があれば、ゆっくりと訪れたいと思っています。

タイ NIAH の訪問では、動衛研から 10 名、タイ NIAH からは Vimol 所長と 10 名以上の研究スタッフが参加し、問題となっている肺炎や下痢疾病のコントロールについて討論し、また施設も見学させていただきました。タイ NIAH には、先進的な機器もある一方、日本から供与された古い機器も大事に使用されていま



タイ NIAH 訪問（前列右から 5 番目が著者）